

平成30年度 当初予算・2月補正予算成立

平成29年度

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

交流新時代にふくいチャレンジ

2月定例県議会において、平成30年度当初予算および平成29年度2月補正予算が成立しました。北陸新幹線や中部縦貫自動車道の整備が着実に進む交流新時代の中、新年度は半世紀ぶりの国体・障スポ、幕末明治150年を迎える大きな節目の年。そして、新たな50年へのスタートを切る年です。今回の当初予算は、国体・障スポをはじめとする、スポーツや文化など様々な分野で活躍する県民や、幕末明治に近代日本の礎を築いたふさと福井の先人たちのように、県民一人ひとりが国内外に交流ネットワークを大きく広げ、自ら新たな挑戦(チャレンジ)を行うことにより、福井の新たな時代を切り開き、福井の魅力・幸福度をさらに高めていくための予算としました。さらに、今年2月の豪雪被害への対応なども行います。

4つの重点施策

- ① 新たな50年へのスタート
- ② 交流ネットワークの拡充
- ③ チャレンジ人材の応援
- ④ 福井ふるさと元気宣言の実施

予算の規模

予算区分	平成30年度当初予算
一般会計	4790億 53万円
特別会計	874億8,372万円
企業会計	368億9,820万円
合 計	6,033億8,245万円

平成29年度2月補正予算の規模 21億9,203万円

① 新たな50年へのスタート

みんなで成功させよう! 国体・障スポ

県民みんなで盛り上げよう

国体・障スポの開催まで残すところあと192日。国体・障スポの融合を図り、県民総参加で福井らしい大会とするため、両大会の開・閉会式への参加や競技の応援、デモンストレーションスポーツへの障害者の参加を促すなど、障害のある人もない人も楽しめるスポーツ交流の輪を広げていきます。

そのほか、すべての市町で競技会が開かれることも国体・障スポの特長。県全体で選手を応援・サポートする体制を整えます。また、恐竜やいちぼれなど、福井のトップブランドを活用したおもてなしや、幕末明治福井150年博と連動した情報発信を行います。



国体・障スポが融合プロモーションビデオより

総合優勝を目指して

昨年の愛媛国体での結果を踏まえた強化対策を最大限に実行し、競技力の向上を図ります。まず、愛媛国体において振るわなかった競技を中心に有力選手を獲得し補強。戦力分析やメンタル強化、トレーナー派遣の機会を増やすなど、年間を通じて選手をサポートします。障害者スポーツについても、強化練習会を増やすほか、トップアスリートによる障害者と健常者との合同講習などを実施。競技力向上とともに、障害者スポーツの一層の普及を図ります。



愛媛国体で活躍した山岳競技選手

共生社会の実現に向けて

国体・障スポの融合を契機に、障害者の自立と社会参加の支援、差別の解消を進めるため、「障害のある人もない人も幸せに暮らせる福井県共生社会条例」を策定。この条例の理念を県民に広く周知し、県民への障害に対する理解を促進するほか、民間店舗などのバリアフリー化や、ICTを活用した文字通訳の導入を進め、官民が一体となって共生社会の実現を図ります。



バリアフリー整備の例

陸上競技場 9.98スタジアムに

桐生祥秀選手が日本人初となる100m9秒台の大記録を樹立した聖地である県営陸上競技場の愛称を「9.98スタジアム」に決定。愛称にふさわしいデザインによる改修を予定しています。9.98スタジアムでは国体・障スポの開・閉会式、陸上競技が行われます。



改修のイメージ

② 交流ネットワークの拡充

高速交通ネットワークの整備

北陸新幹線金沢・敦賀間の整備について、平成30年度政府予算案に2,250億円の事業費が盛り込まれました。このうち県内区間の事業費は昨年の1.4倍となる1,225億円。県では、負担金として245億円を計上しました。一日も早い敦賀開業を目指し、九頭竜川橋りょう、福井高柳高架橋、新北陸トンネルをはじめ県内全域で工事を進めます。

中部縦貫自動車道については、トンネル工事が本格化することから昨年の1.5倍となる43億円を負担金として計上。大野油坂道路の北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通を目指し、荒島第1トンネル(仮称)の工事などを進めます。



福井高柳高架橋の工事

おもてなし力をアップ

北陸新幹線開業により、多くの観光客やビジネス客が福井を訪れます。敦賀開業までの5年間を集中期間として、駅周辺市街地や観光拠点周辺の飲食店、宿泊施設などの店舗改裝・設備導入のほか、伝統工芸品の工房見学・体験施設の整備を支援。県産品を活用したおもみやけ品の開発なども応援します。また、国体・障スポや冬のイベントとあわせて県庁舎にプロジェクションマッピングを上映。市街地の賑わいを演出します。



伝統工芸品の工房見学

嶺南の魅力高める

縄文遺跡や梅・へしこなどの食材、民宿など多様な資源を有する三方五湖エリア。新幹線開業時に、このエリアを核として敦賀から西へ観光客を呼び込むため、観光、環境、農・漁業などの関係団体からなる協議会を設立し、エリアの活性化に向けた計画を作ります。また、若狭湾の民宿が協力して地域全体の魅力を高め、観光客などの滞在・交流を促進する市町の取組みを支援します。

さらに、北陸新幹線開業の効果で嶺南全域に波及させるため、JR小浜線を軸とした交通網計画を策定。公共交通の利用実態調査を実施し、小浜線の利活用促進や魅力向上、バスとの接続強化など、利便性向上策を検討します。



三方五湖

年縞博物館開館へ

三方五湖の5つの湖の中で最も大きい水月湖の底にある、竊玉様の堆積物「年縞」。7万年もの年月をかけて作られた年縞は、解析すると過去の自然環境が復元できます。また、化石や文化財の年代を測定する基準にも活用されていることから、世界的にも高く評価されています。9月には、年縞博物館を開館予定。開館後は特別企画展や国際シンポジウムを開催し、環境教育の拠点として活用します。



年縞博物館(イメージ)

幕末明治福井150年博を開催

元号が明治に改められてから150年となる今年、「幕末明治福井150年博」を開催します。3月から11月までの252日間、県立歴史博物館と福井市立郷土歴史博物館を中心に、県内各地で幕末明治の福井に関する特別展や企画展を次々実施。近代日本の礎を築いた先人の功績や生き方、福井の歴史や文化を伝えるとともに、交流促進と観光誘客の拡大を図ります。



由利公正 松平春嶽 橋本左内

イベントで機運を醸成

県内全域で開催する企画展の他にも、様々なイベントを企画しています。JR福井駅などでは、福井藩松平家の屋敷や、当時の東京都知事由利公正が整備した煉瓦づくりの銀座の街並みをCG映像で再現し上映。県内各地では、幕末明治の歴史の流れや、その土地で活躍した先人について学べるレール講座を開催するほか、先人たちが生きた時代から続く老舗を巡る、まち歩きマップの配布などを行います。また、インターネット上でも先人の功績や福井の産業にちなんだ問題が出題される「幕末明治福井検定」を開催。福井の歴史ファン獲得、認知度向上につなげます。

ゆかりの地との交流

日本の未来を切り開いた先人たちは、全国各地とつながりを持っています。松平春嶽は、伊達宗城(愛媛県)山内容堂(高知県)島津斉彬(鹿児島)と共に「幕末の四賢侯」と呼ばれました。また、県内には幕末に全国を揺るがした「水戸天狗党」事件ゆかりの地が多く残っています。これらゆかりのある県と、アンテナショップでのイベントやシンポジウム、ツアーの開催などを通して交流し、幕末明治福井150年博を県外に強くPRします。

アジアへさらに売り込む

著しい経済成長が見込まれるアジア諸国に対して福井の食文化を提案し、新たな販路開拓・輸出拡大を図るため、香港、台湾、シンガポールに加えてタイでも売り込みを行います。さらに、東南アジアで売れる県産品を作るため、現地視察や消費者からの意見の聞き取りを行います。また、中国本土・東南アジアへのゲートウェイとなる香港に福井県のアンテナショップを設置。更なる販路拡大・インバウンドを促すほか、県内宿泊客数が年々増加している台湾には、県内と現地の旅行会社などを繋ぐ営業窓口を設置し、さらに誘客を拡大します。



海外での高級会

関西圏との新たな交流促進

北陸新幹線の大阪までの開業や、2025年に大阪での開催を目指す万国博覧会など、関西圏との新たな交流を促進することは今後ますます重要になります。そのため、福井の食や観光を関西圏に売り込む販路開拓調査やニーズ調査を行い、効果的な営業戦略を検討します。

映画で恐竜をPR

恐竜をテーマにした世界的大ヒット映画の続編公開に合わせて、全国各地の映画館で恐竜博物館をPRするCMを放映。多くの人に恐竜博物館へ足を運んでもらうきっかけを作ります。



東京でのPR

災害への対応について

平成30年豪雪への対応

今年、県内では2月5日から13日にかけて、嶺北を中心に「昭和56年豪雪」以来の記録的な大雪に見舞われました。最深積雪は越前市武生で130cm、大野市九頭竜で301cmと、観測史上最大を記録。福井市内においても37年ぶりに積雪130cmを超え、県民の皆様の生活にも大きな影響をおよぼしました。県は、この豪雪の被害に対応するため、2月補正予算として除排雪にかかる経費を11億円、2月補正予算に追加して8億円計上。平成29年度当



初予算分とあわせ、41億円の経費を確保しました。これは、平成となったから最も大きな額です。また、県および7市2町が行った被災者の救護や支援物資の提供など災害救助法に基づく救助活動経費を計上しました。豪雪の影響により設備の損壊や売上の減少などの被害を受けた県内の中小企業や農業者が、運転資金や設備資金を借り入れる際の利息負担などを支援するほか、園芸ハウスが倒壊した農業者に対して、倒壊したハウスの撤去や再整備にかかる費用を支援します。

③ チャレンジ人材の応援

企業の人材確保を支援

企業の人手不足に対応するため、「人材確保支援センター」を設置します。多様な人材を活かせる職場づくりなど、企業の課題に応じた人材確保策や活用策を提案するほか、県内企業と県外大学のつながりを強化する役割も担います。

地域活動を応援

新たな地域ビジネスの起業や新商品開発、地域の祭事や里山里海湖の保全活動など、地方での就労や貢献に興味のある都市部の企業人材を誘致。福井と都市部を行き来しながら地域活性化に貢献する人を市町と共に応援します。



農作業体験(イメージ)

若者のチャレンジを応援

福井県産業情報センターに入居して創業を目指す学生に対して、会社設立にかかる経費や、活動経費を助成します。大学での研究や学生ならではの斬新なアイデアを活かした起業へのチャレンジを応援します。また、3年の任期を終えた後も地域に定着し活動を継続する地域おこし協力隊員にも支援を行い、若者の定住促進と地域活動の活性化を目指します。

ひとり親家庭の自立を支援

新たに始まる「第4次福井県ひとり親家庭自立支援計画」に基づき、ひとり親家庭などに対して、病児の子どもの預けるための費用や放課後児童クラブの費用を支援。あわせて、高校生が公共交通機関を利用して通学する際の負担を減らす施策を市町とともに展開します。

④ 福井ふるさと元気宣言の実現

結婚の希望を叶える

「企業間交流婚シェルジュ」を新たに配置し県内の若手社員の交流を進めるほか、結婚相談の専門知識を学べる「ふくい縁結び学校」の内容を充実させ、「地域の縁結びさん」や結婚相談員のサポート力を向上。また、託児付きの婚活イベントなど、再婚を希望する方を含め誰もが参加しやすい出会いの場を提供し、結婚の希望を叶えるためのサポート体制を整えます。



結婚相談

安心な出産のために

不妊治療においては、出来るだけ早い時期に検査を受け、適切な治療を開始することが重要です。これまで行ってきた、体外受精などの専門的な不妊治療に対する支援に加え、不妊検査や、一般不妊治療に要する費用も支援します。

ドクターヘリの共同運航開始に向けて

救急医療の患者に迅速な救命治療を提供するドクターヘリ。共同運航の実現に向けて滋賀県、岐阜県と協議を進めており、協議が整い次第運航を開始します。また、県内全域において救急医療体制をさらに強化するため、単独運航についてもあわせて検討します。



ドクターヘリ

新分野への挑戦

航空産業分野においては、県が特許を持つ炭素繊維技術を活用し、大学や大手重工業メーカーと共同で、航空機機体向け材料の共同研究を行います。また、自動車の自動走行実用化を早期に実現させるため、国の実験地域に選定された「永平寺参道」において完全無人走行における歩行者への安全対策、交差点の通行量や道路状況などに応じた交通処理の検証を実施。新たな交通システムの構築を目指します。

AI・IoTを活用

県と大学、企業、産業支援機関が一体となり、県産情報センター内に「AIビジネスオープンラボ(仮称)」を設置します。ラボではAI・IoTに関する相談対応やプログラムの開発体験、プログラミング教室による人材育成を実施。先進的な商品・サービスを創造する企業が増えていくよう支援します。

「いちぼれ」の本格生産・販売

コシヒカリを生んだ福井県が、技術の粋を集めて開発したお米「いちぼれ」、日本穀物検定協会が行う米の食味ランキングでは最高評価の「特A」を獲得し、いよいよ今年本格生産・販売を迎えます。昨年試験販売を行った首都圏に加え、関西・中東エリアにも販売を拡大。また、テレビ、新聞、雑誌などメディアを活用したPR活動をさらに強化し、日本を代表するトップブランドを目指します。

そのほか、近年国産ワインの需要が高まっていることを受けて、ワイン醸造・ブドウ栽培実習などを開催。県産ブドウを育成した「ふくいワイン」の担い手を育て、県産ワインの振興を図ります。



いちぼれコシヒカリによる販売宣伝

中小企業の方へ

被災により必要となる設備・運転資金や借り入れた運転・設備資金の借り換え資金に対して支援します。融資額/最大1億円 融資期間/10年以内 融資利率/原則として保証協会付1%以下 ※支払利子のうち、当初5年間は年1%以上限に県が補給し、保証料は全期間、県が全額補給します ④産業政策課 TEL:0776(20)0373 FAX:0776(20)0645

県税の軽減措置などについて

資金の借り入れに使用する納税証明書の交付手数料を免除します。不動産取得税、自動車税、自動車取得税について、被災者の申請により期限の延長、納税の猶予、税の減免などを受けることができます。 ④福井県税事務所 TEL:0776(21)0020 FAX:0776(21)8260 嶺南振興局税務部 TEL:0770(56)2222 FAX:0770(56)2385

子どもの探究心を育てる

児童科学館(エンゼルランドふくい)の大型モニター「ジオ・エンゼル」に投影される映像に、宇宙から見た地球リアルタイムに映し出すものと、約6億年前からの大陸移動の様子を映し出すもの2点を追加します。また、恐竜博物館や年縞博物館とも連携し、子どもの科学学習に活用します。恐竜博物館では、恐竜の種類や進化をわかりやすく伝える恐竜系統図を作成するほか、企業と共働して子ども向けの恐竜セミナーを開催。恐竜を学ばせ楽しさを伝えます。



大型モニター「ジオ・エンゼル」

給食で食育と地産地消を推進

児童・生徒への食育のため、特産品などの地産産食材を使った特別な給食の提供や、学校給食畑や生産現場での農林漁業体験を実施。地域の農林水産業や食文化への理解を深めるとともに、地産産食材の使用量の拡大にもつなげます。

教員の負担を軽減

教員の負担を軽減し、子どもと触れ合う時間を確保。子どもたちが心豊かに育つ環境づくりを進めます。県立高校の全ての普通教室にプロジェクターなどのICT機器を2年かけて導入予定。様々な教材を提示できるうえ、板書時間も短くなります。また、県内の全中学校と一部の高校に、教員に代わる部活動指導員や事務を行う支援員を配置。相談体制を一層充実させるため、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーも増員します。

水産資源の増大

アユ釣りを目的とした観光客が年間約3万人訪れる福井県。しかし、平成29年度はアユが減少。記録的な不漁に見舞われたため、海産系アユの追加放流(8.5トン)を支援し、天然アユの回復を図ります。また、水産学術産業拠点基本構想に基づき、栽培漁業センターの機能を強化。漁家民宿などからの需要が高く、高級魚として将来有望なマハタの稚魚を育てる施設を整備します。

儲かる園芸の確立

今後の米政策の見直しに対応し、儲かる農業を実現するため、水田を活用した圃場作りや、大規模な栽培を行うために必要な経費を支援。園芸生産の拡大を進めます。



園芸用の機械

再生可能エネルギーで福井を元気に

小水力発電などの再生可能エネルギー導入に意欲のある県内企業を支援。売電収入の一部を農作業支援・機器購入や地域の伝統行事の継承などに充てる地域還元型の取組みを進めることで、再生エネルギーの導入拡大と同時に地域活性化を図ります。



小水力発電